

## 執筆者一覧（掲載順）

山	口	建	治	非文字資料研究センター研究協力者 神奈川大学名誉教授
張		玲		愛知大学国際中国学研究センター 客員研究員
白	松	强		湖北民族大学 中南民族大学
张		洋		湖北民族大学
俞	鳴	奇		神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
馬		路		非文字資料研究センター 2016 年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
游	舒	婷		非文字資料研究センター 2016 年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

## ■編集後記

『非文字資料研究』第17号をお届けします。今回も多彩な内容の論文が揃いました。巻頭を飾るのは、木簡の発見を契機とする、牛頭天王の成立をめぐる自説の再検討であり、著者の研究の息の長さを感じさせる論文です。またその後に続くのは、現代中国女性のファッションの推移、文化遺産の問題、そして漁民による知識の伝承です。民間習俗から、ジェンダーや身体表象といった新しい主題まで、それらを考察する場を提供することが、この『非文字資料研究』の使命であると感じています。

「非文字資料研究」はさまざまな定義がされつつも、今なお固定していないアプローチです。むしろさまざまな論文やフィールドワークによって、「非文字的なるもの」が事後的に確立していくのだと言えるでしょう。2019年2月に、非文字資料研究センターは10周年を迎え、記念のシンポジウムを行いました。そこで多くの発表者によって語られたのは、資料の多様性であり、資料に当たることでとるべきアプローチが見えてくるといふ、経験主義的な研究スタイルでした。今後、非文字資料研究のスタイルが確立するときにも、このような現段階での模索期の重要性は忘れてはならないように思います。そしてこの変容の証言者となるのも、この『非文字資料研究』なのです。

そして未来の非文字資料研究を形作る一步として、奨励研究の成果論文があります。今回は2016年度における二つの論文を掲載しましたが、ここにもまた主題の多様性が見られます。若い研究者たちが新しい研究にチャレンジすることを推し進め、研究成果の発表の場となることを、今後とも目指していきたいと思えます。(熊谷)

## ■表紙説明

焰魔天曼荼羅は、密教の修法で焰魔天を本尊として行う際に掲げられる図である。密教仏典によれば、図中央の焰魔天が左手に持つのが、人頭幢（檀拏幢）と呼ばれるものであり、その口から火光や薫香を出して人の善悪の裁定結果を示す。中央最下段の眷属神五道大神（五道將軍ともいう）は現世（の人の夢）に現れでて焰魔天の裁定通り執行する。

焰魔天修法がさかんに行われた平安末から院政期にかけて、密教僧は五道大神の神威を恐れ神名を口にすることすら憚った。しかもこの神は怨敵降伏の調伏法である転法輪法の本尊と考えられた形跡さえある。日本文化から完全に消え去った観のある中国民間神五道大神が明治になるまで実は意外な姿で生き延びていた？

表の表紙の焰魔天曼荼羅は京都国立博物館所蔵（『国華』1445号所載）のもの、裏表紙のは『覚禅鈔』（『大正新脩大藏經図像第5巻』、第118焰魔天法）のものである。(山口建治)

非文字資料研究 第17号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No.17

発行日	2019年3月20日
編集・発行	神奈川県立歴史博物館 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 <a href="http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/">http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/</a>
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2432-5481